



2020年度 人文社会科学部 後援会総会

学部長 内田聡

茨城大学の教育目標

「変化の激しい21世紀において社会の変化に主体的に対応し、自らの将来を切り拓くことができる総合的人間力を育成する」

【人文社会科学部で身につけるチカラ】

世界の俯瞰的理解

- 多様な文化とその価値への深い認識と、自然環境や国際社会に対する幅広い知識・俯瞰的な理解
- 地域がグローバルな動きとつながっているという認識

専門分野の学力

- 人文科学・社会科学の学問的な方法、ものの見方・考え方
- 学問分野に応じた専門的な調査・分析・企画力

課題解決能力・コミュニケーション力

- 情報を主体的に収集・分析・活用し、文章でも口頭でも的確に説明する力
- 文化、社会、人間を多角的に捉えて考察できる力
- 目標に向かって多様な人々と積極的にコミュニケーションをはかる能力

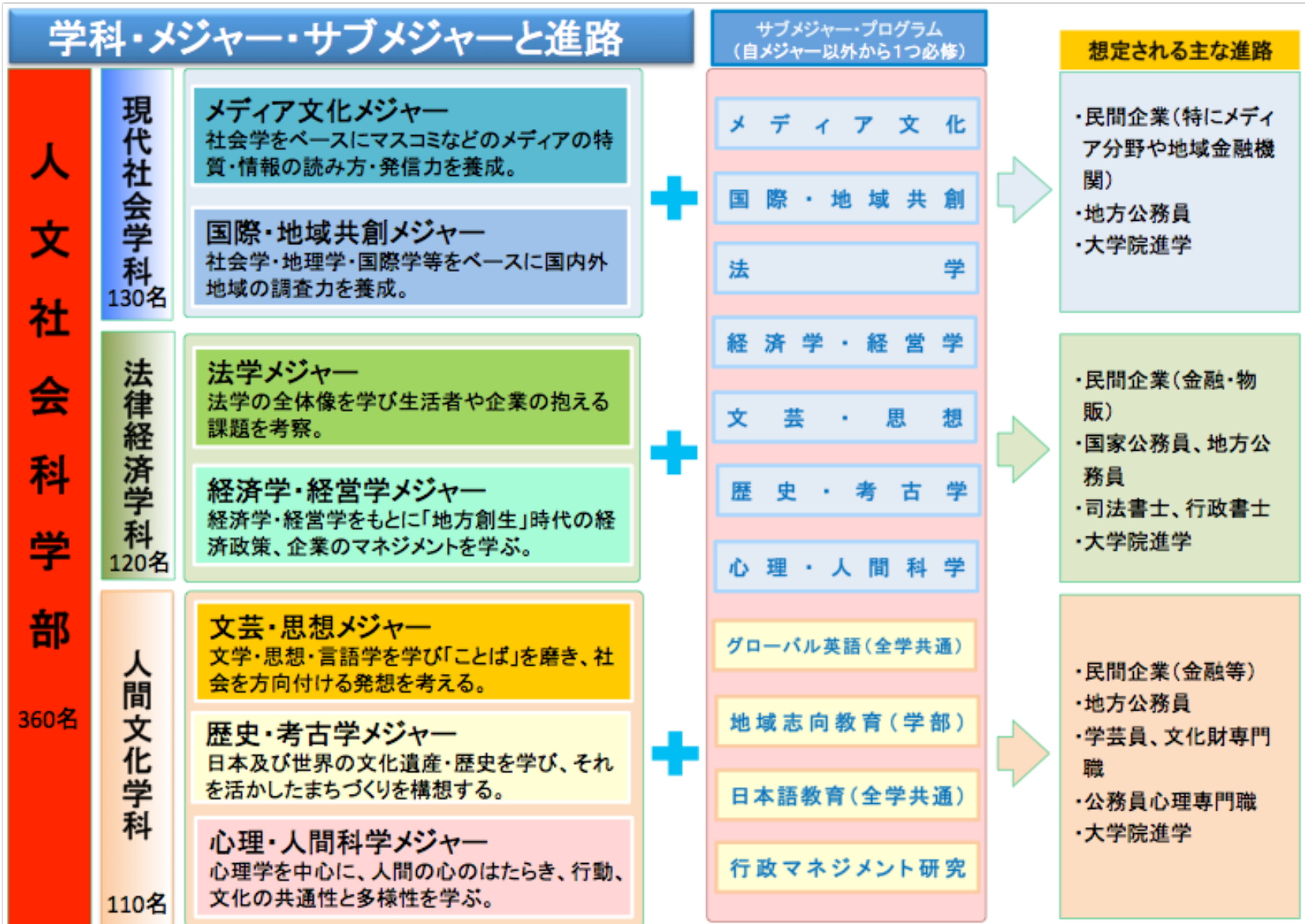
社会人としての姿勢

- 職業人や市民としての社会的責任と役割に関する自覚を持ち、生涯にわたり自ら学び続ける積極性

地域活性化志向

- 職業人や市民として地域の課題を見だし、地域の持続的発展に主体的に携わる意欲と能力

人文社会科学部のカリキュラム



人文科学と社会科学を学ぶ文系総合学部です。

全員が「メジャー」(主専攻)と「サブメジャー」(副専攻)を学びます。

支援を受けた学生の活動の1例（NHK水戸放送局などで取り上げられました）

茨城大学人文社会科学部主催 茨城県議会・茨城県教育委員会後援プロジェクト

茨城の魅力を探求し発信する高校生コンテスト

■ 茨探2019 ing（現在）

都道府県の魅力度ランキングにおいて7年連続の最下位でも茨城大好きの高校生から

「地域をみなおし、ふるさとの魅力を学ぶ『未来探求』」を学ぶ高校生から

「茨城に生まれ、暮らし、学ぶ高校生から、茨城の魅力を探求し発信する「茨城の魅力を探求し発信する高校生コンテスト2019」を企画、2019年7月から募集
高校生の視点で茨城の魅力を探求し、茨城の良さを伝える動画等を制作してもらう

茨探

PBL（課題解決型学習・問題発見解決型学習）の学びで大学教育を体験

大学への興味、進学意欲を高める機会

茨城県議会 茨城県教育委員会の協力

市町村自治体の協力

参加申し込みのある高等学校

茨城キリスト教学園高等学校	東洋大学附属牛久高等学校
大成女子高等学校	清真学園高等学校
江戸川学園取手中・高等学校	緑岡高等学校
石岡第二高等学校	水戸第三高等学校
水戸葉校高等学校	大子清流高等学校
潮来高等学校	大成女子高等学校
常陸大宮高等学校	水城高等学校
中央高等学校	那珂湊高等学校
石岡第一高等学校	下館第二高等学校
神栖高等学校	霞ヶ浦高等学校
笠間高等学校	

600人以上の高校生が挑戦

茨城大学人文社会科学部
学生と共にサポート

ご賛同いただいている団体（個人を除く）

鈴縫工業株式会社
JTB協定旅館ホテル連盟茨城支部
石岡市・石岡市観光協会
大子町
常陸大宮市
茨城町
水戸市
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
株式会社リクルート北関東マーケティング
商船三井フェリー株式会社
保険クリニック 株式会社ネクサス
茨城県農業協同組合中央会
茨城大学人文社会科学部後援会

イガラシ綜業株式会社
株式会社ヤマダ電機
常総市
鹿嶋市
高萩市
小美玉市
常陸太田市
茨城県生活協同組合連合会
茨城県観光物産協会
スカイマーク株式会社
株式会社 ITS
茨城県酒造組合
茨城大学文理・人文学部同窓会

250万円超
の支援

100作品
を超える
制作

2020年度の飛躍

茨城大学人文社会科学部主催 茨城県議会・茨城県教育委員会後援プロジェクト

茨城の魅力を探求し発信する高校生コンテスト

茨探2020 茨城から 世界発信へ



茨探2019

茨探2019ではできなかった「編集」「公開」サポートを協力企業「Google」「EDL」「iTS」の支援で、高校生に提供します。情報教育、社会教育にも大きく貢献できます。その基盤作りのための初期費用を県・大学等のALL茨城で分担したい。

- 茨探2019の優秀作品は、JR大宮駅西口アルシェビルのコカ・コーラデジタルサイネージ、茨城空港ロビー等で紹介される予定です。
- 制作作品を収録したDVDを付けた「茨探2019報告書」を茨城県内の高等学校、協力自治体、協賛協力者等へ送付します。
- 茨探ホームページで、受賞作品を紹介します。

教育環境の充実：

学生共同研究室、院生室等の机・椅子の整備、ラーニングコモンズ室の新設、事務室の統合、履修支援室の新設など



さらに、

全国初！教授会会場に子ども連れで参加できる スペースを開設しました

人文社会科学部では、教員の子育て支援のひとつとして、教授会へ子ども連れで出席できるスペースを設けました。教員が気兼ねなく利用でき、子どももリラックスできるように、会場後方の通訳ブース(個室)を「子ども連れスペース」として活用しています。令和2年2月に利用した女性教員からは「子どもを連れて教授会に出席することができて、助かっています。」との感想がありました。また、若手の教員からも「わかりやすい子育て支援の取組がうれしいです。」との声があるなど、「子ども連れスペース」の取組は好評です。



「子ども連れスペース」で教授会に参加する教員

自動販売機の3台増設（人文社会科学部独自の取組み）

災害時の飲料の無償供給という役割も担う

→ 後援会で毎年ご支援いただいていた水の備蓄経費を他に活用

自販機は、講義棟入口
B棟玄関ロビーに設置します。



カップコーヒー自販機
A棟入口付近に設置します。





引き続き
ご協力のほど
よろしくお願いいたします。